

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	城東区
学校名	大阪市立成育小学校
学校長名	井上 修

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立成育小学校では、第6学年 121名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科と算数科、理科の3教科とも、平均正答率が大阪市平均及び全国平均を上回る結果となった。また、平均無回答率は、国語科と算数科が大阪市平均及び全国平均より低くなっている。回答に対する意欲がうかがえる。理科は、大阪市平均より1%上回ったが、全国平均より1%下回った。

学習指導要領の内容・領域別正答率を見ると、3教科ともほぼ全ての領域（国語科：全6領域、算数科：全6領域、理科：4領域中3領域）において、平均正答率が大阪市平均及び全国平均を上回った。特に、国語科「B書くこと」は、大阪市平均及び全国平均を7～10%上回った。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

### [国語]

正答率50%以下は全体の14.0%で、大阪市平均27.7%、全国平均25.4%と比べ、10%以上低く抑えられている。「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」のすべてにおいて、平均正答率が大阪市平均及び全国平均を上回った。

### [算数]

正答率50%以下は全体の28.1%で、大阪市平均41.7%、全国平均41.0%と比べ、10%以上低く抑えられている。「A数と計算」「B図形」「C測定」「C変化と関係」「Dデータの活用」のすべてにおいて、平均正答率が大阪市平均及び全国平均を上回った。特に、「Dデータの活用」の平均正答率は、大阪市平均よりも7.2%、全国平均よりも6.5%上回った。

### [理科]

正答率50%以下は全体の27.1%で、大阪市平均39.3%、全国平均34.9%と比べ、低く抑えられている。「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域の平均正答率は、大阪市平均及び全国平均を上回った。しかし、「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率は、大阪市平均よりも2%上回ったが、全国平均よりも2%下回った。

質問調査より

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的に回答する割合は、昨年度は95.5%だったが、本年度は98.3%と向上し、いじめ解消に向けて取り組んできた成果が見られた。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「国語の授業は好きですか」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」の肯定的に回答する割合が、全国平均・大阪市平均を共に上回っており、教員の日々の学級経営や授業改善を進めていった結果であると考える。

しかし、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の肯定的に回答する割合が、全国平均・大阪市平均が91%に対して本校は89%と下回り、規則正しい生活が送れるように、児童や家庭への声掛け等を進めていく必要がある。

## 今後の取組(アクションプラン)

今年度は「温かなつながり」をもとに深い学びを実現することを目標に、全学年で授業を実施している。これまで「効果的な対話」を軸に研究を進めてきたが、今年度はその継続として、児童同士が互いを認め合い、励ましあえるような安心感のある対話(協働的な学び)を「温かなつながり」として位置付けている。この視点を全学年で共有し、日々の授業改善に努めることで、児童の思考力・判断力・表現力の向上につなげている。

## 【 全体の概要 】

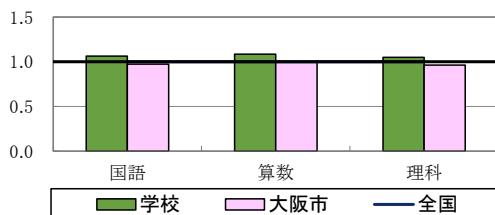
### 平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	71	63	60
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

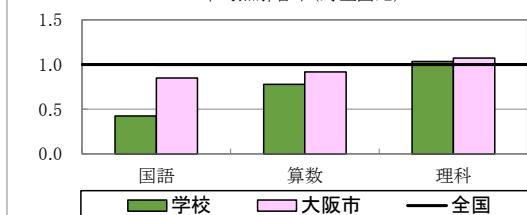
### 平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.4	2.8	2.9
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



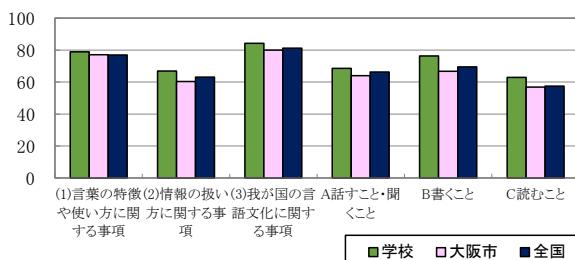
## 【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	78.9	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	66.9	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	84.3	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	68.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	76.3	66.7	69.5
C 読むこと	4	63.0	56.9	57.5

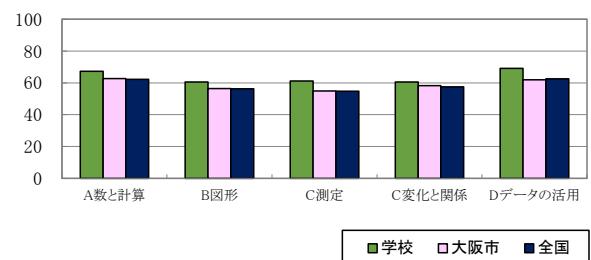
## 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	67.3	62.7	62.3
B 図形	4	60.5	56.4	56.2
C 測定	2	61.2	54.9	54.8
C 変化と関係	3	60.6	58.2	57.5
D データの活用	5	69.1	61.9	62.6

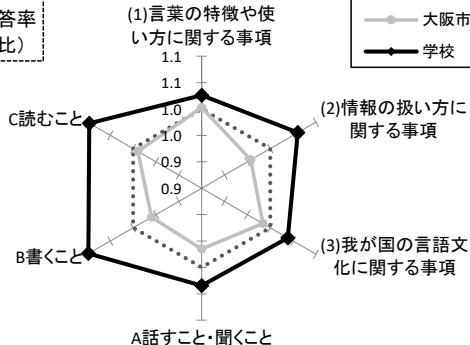
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



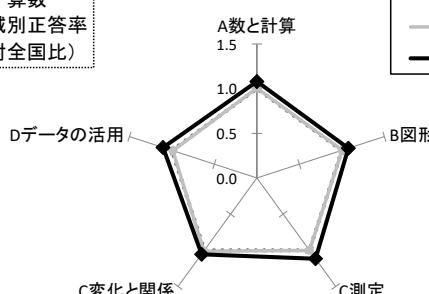
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)

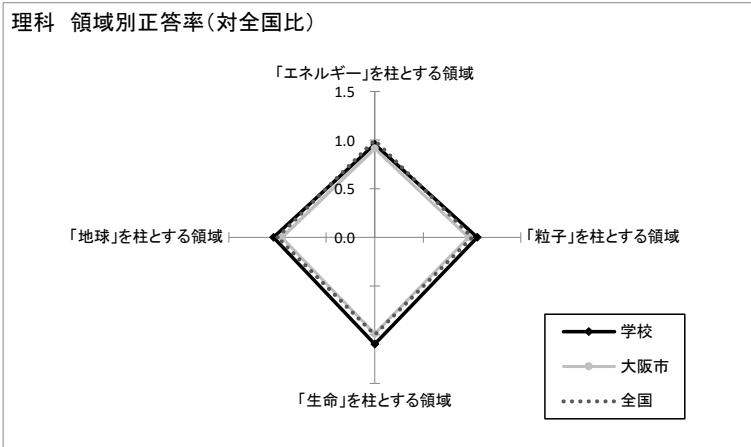
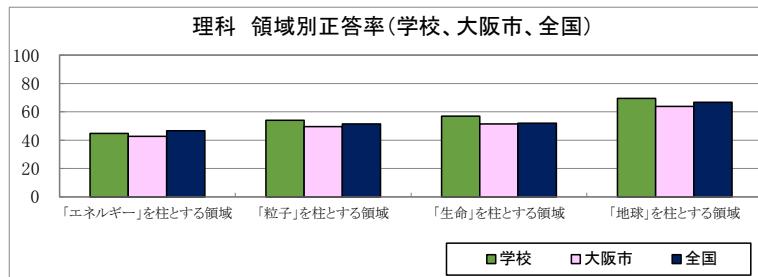


算数  
領域別正答率  
(対全国比)



## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 分 区	「エネルギー」を 柱とする領域	4	44.7	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	54.1	49.5	51.4
B 分 区	「生命」を 柱とする領域	4	57.0	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	69.5	63.8	66.7



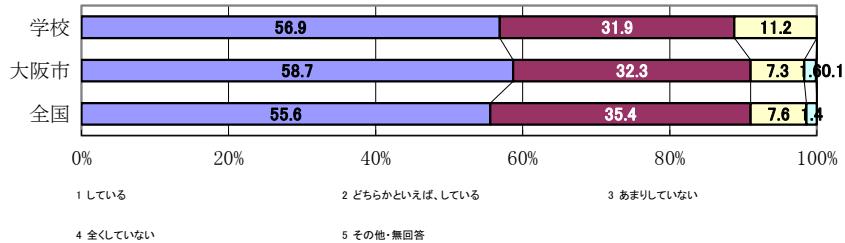
## 児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

### 質問番号 質問事項

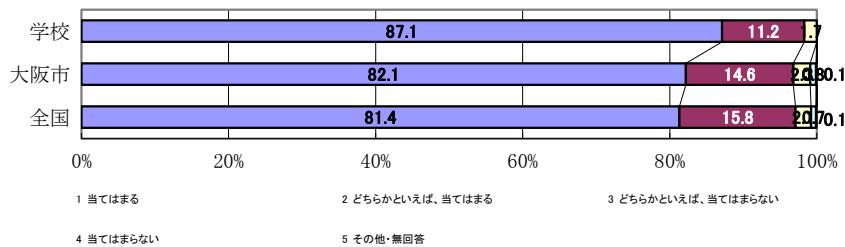
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



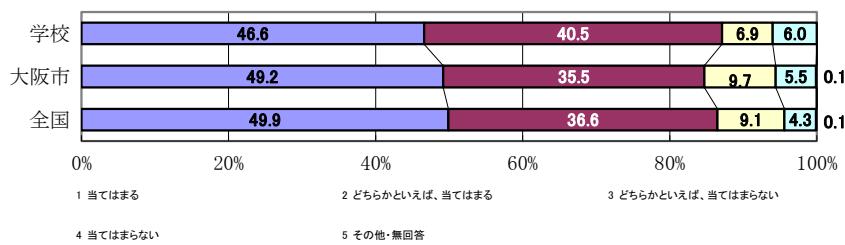
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



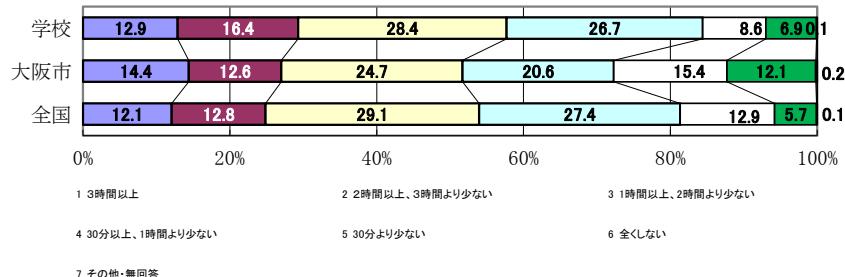
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



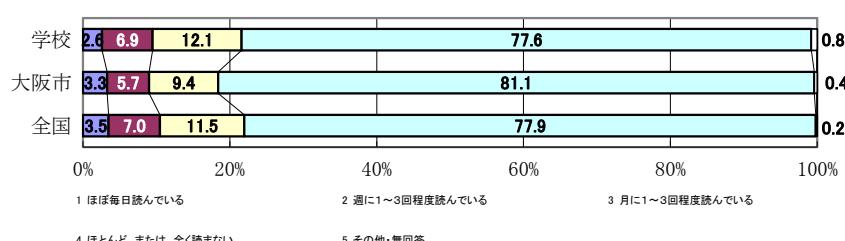
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



23

新聞を読んでいますか



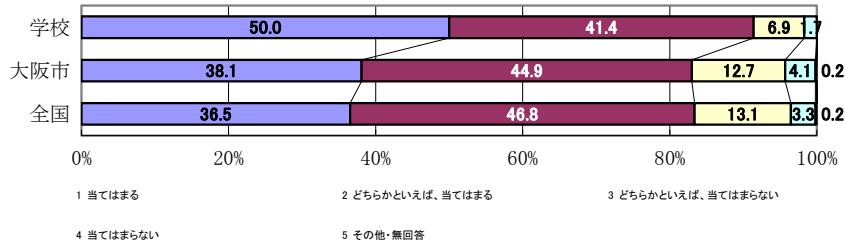
## 児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号  
質問事項

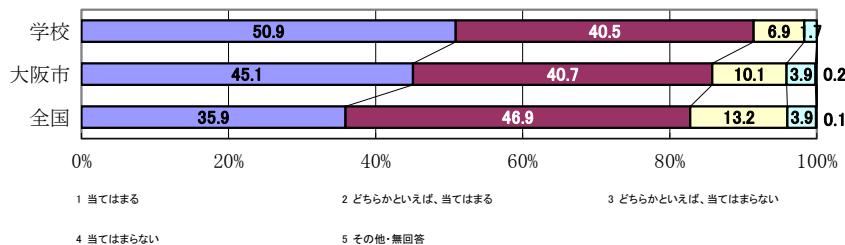
41

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



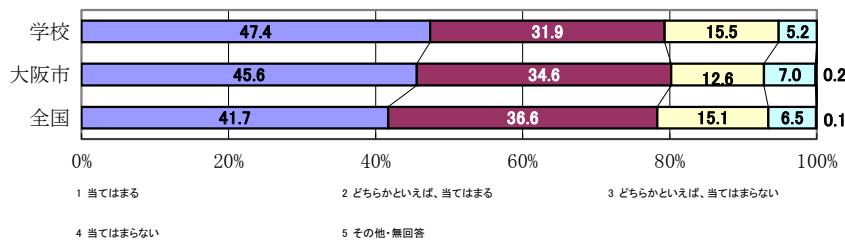
46

国語の授業の内容はよく分かっていますか



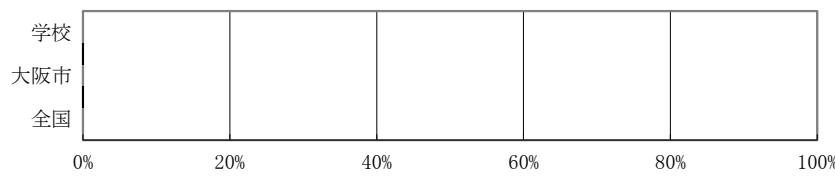
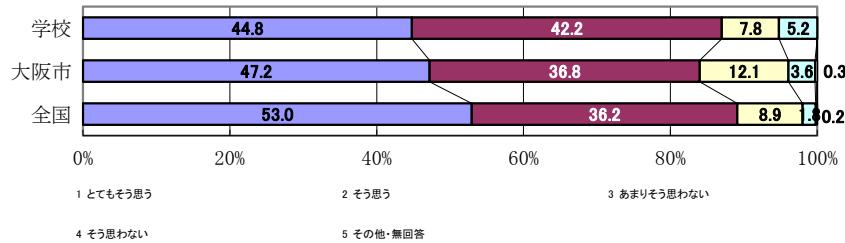
54

算数の授業の内容はよく分かっていますか



77

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2)分からぬことがあった時に、すぐ調べることができます



## 学校質問より

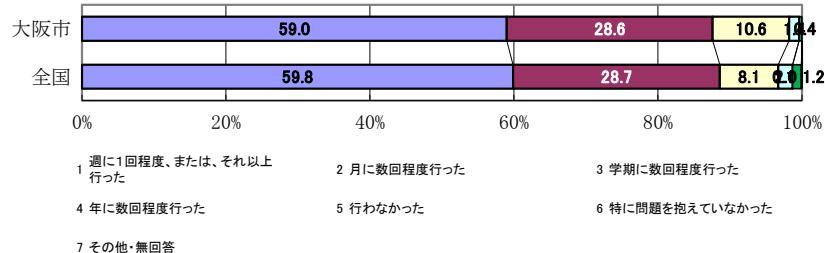
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号  
質問事項

12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、どもに問題解決に当たることを行いましたか

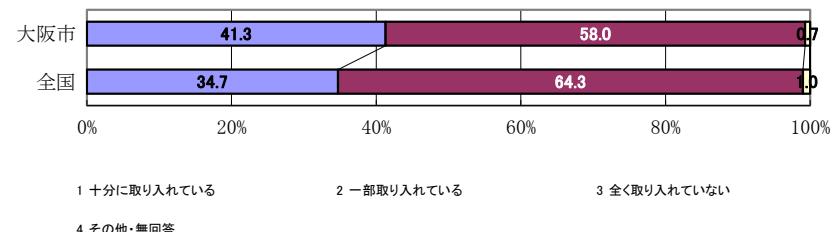
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

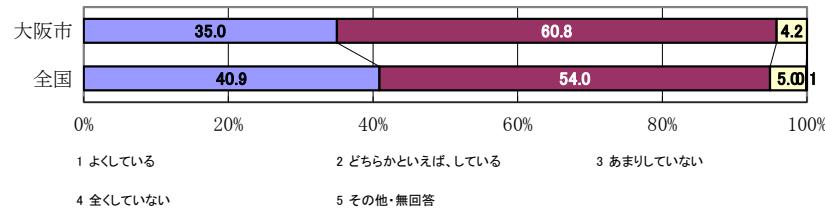
学校 「十分に取り入れている」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

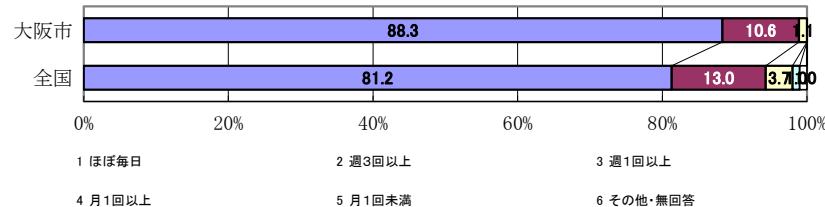
学校 「どちらかといえば、している」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「」を選択

